

地域活性化 伝道師が行く

文・篠原靖

vol.
019

がんばれ!佐渡ヶ島

10年ぶりに佐渡ヶ島を訪問した。新潟県の坂巻健太観光局長の依頼を受け、来年度に向けた佐渡の新たな取り組みとして、観光庁の推進する観光圏整備計画の勉強会を行うためだ。佐渡への観光客数は91年の121万人をピークに減少に転じ、昨年は60万人となるなど、苦戦を強いられている。勉強会には地元で観光振興に汗を流す多くの皆さんが参加、深夜まで活発な意見交換が行われた。

そのひとり、昔ながらの佐渡らしさが残る小木地区宿根木で、「花の木」という宿を営むのが渡辺明子さんだ。2000坪の敷地に味わいのある古民家を移築して、96年に陶芸家のご主人と開業した。客室数を7室におさえ、「地産地消」にこだわりながらのおもてなしが評判になり、今では各界の有名人の隠れ宿として、知る人ぞ知る名宿として人気を誇っている。

宿を営む一方で、渡辺さんは高齢過疎化に直面する佐渡を何とか元気にしようと活動。オリジナル地場産品として、地元の小木に自生する椿から天然素材としての椿油を注出させることに成功した。体によい椿油ドレッシングの開発や椿油を美肌効果の高い化粧品に加工し、新たな地場産品として有名にしたいと意気込みを語る。

原料となる椿の実実は地元のお年寄りに集めてもらい買い上げている。収入のないお年寄りはお小遣

いができ、かつ、また社会貢献できることを生きがいとして椿の実を求め、楽しく山を歩いているという。今後は椿製品を観光素材として活用、島の活性化に向けた新たなブランドづくりを進めていく考えもある。

佐渡といえばまた、芸術的な太鼓演奏で世界中から絶賛される「鼓童」による島興しの活動も忘れてはならない。鼓童文化財団事務局長の菅野敦司さんは、すっかり定着したアース・セレブレーションの総合プロデュースを担当するかたわら、地域活性化に向けたさまざまな企画を精力的に実行している。

佐渡市から指定管理を受ける佐渡太鼓体験交流館では、子供からお年寄りまで約9000人が、憧れの鼓童のメンバーによる太鼓指導を体験し、郷土芸能や佐渡に伝わる生活技術の継承を受けている。旅行者参加型企画で伝統芸能をベースにした新たな佐渡観光の切り口を定着させるべく、元気に頑張っている。今後は自ら「鼓童流の着地型旅行商品」を開発し、広域観光圏の整備に備えたいとしている。

佐渡はもともと、1市7町2村が行政区として独立していたが、04年3月に全島1市の佐渡市が誕生した。現在はそれまで市町村単位で設置されていた観光協会も合併。佐渡観光協会として、07年春には社団法人化と第3種旅行業登録を実現した。島を訪れる観光客の低迷状態を打破すべく、着地型旅行の推進を進めるなど団体旅行地であった佐渡ヶ島も個人旅行の受け入れのための仕組みづくりを着々と進めている。

こうした新たな取り組みに加え、佐渡から本州側の3航路をつなぐ新しい広域観光のシナリオを今からしっかりと考案することで、「観光立島・佐渡」の復活を図りたい。



鼓童文化財団事務局長の菅野さん（右）と筆者

しのはら・やすし ●81年東武トラベル入社。05年から企画仕入部副部長として観光素材の発掘・旅行商品化を手がける。この実績から07年、内閣府地域活性化伝道師に任命。